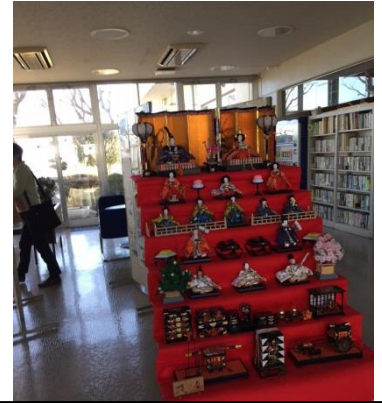


土浦の公民館とやすらぎサロンを見学しました

3月1日、高齢福祉部会を中心に15名で「土浦市二中地区公民館」と「やすらぎサロンつわ」を見学にいきました。

1. 二中地区公民館

土浦市では中学校区ごとに公民館があり、地域の相談窓口としての役割と、地域ケアシステムの一環として、要支援者やその家族のケアを行うチームケアの拠点にもなっています。地域ケアコーディネーターの社協職員が身近な公民館に常駐しているのは心強いですね。さらにソーシャルワーカー等の実務者で構成された「スクラムネット」があります。



季節を感じさせる雑飾りのしつらい

月に1回開催され、担当者だけでは解決が難しく、他機関、多職種が連携して総合的の支援が必要な方に対して対応策を検討、実行しています。検討を重ねながら「ケアチーム」を結成し、連携して支援しています。ここで対応したがうまくいかないケースについては、隔月で開く「ふれあい調整会議」（医療関係者、民生委員、市民委員会福祉部、ボランティア障害者相談員、薬剤師等で構成）で専門的立場から意見を伺い、対応策を検討。その意見はその後の支援にフィードバックされます。緊急対応や方針変更が必要な場合に開催するケアサポート会議ではケアチームの情報共有を図り対応策を検討します。

土浦市では、公民館は公民館、コミュニティセンター、社会福祉協議会の三つの役割を持っていて、それぞれの長を公民館長がひとりで担っています。

コミュニティセンターとしては、土浦市まちづくり市民会議のもと、二中地区市民委員会の6専門部が実質的な活動を担っています。社協支部としては、職員が「地域ケアコーディネーター」として福祉の相談窓口となり、区長、民生委員等と連携して地域の具体的な課題の解決にあたっています。このように公民館という住民に身近な施設が地域コミュニティや社協とつながって、高齢者や地域住民の生活を支えているという仕組みは良くできていると思います。説明して下さった館長さんのいきいきと楽しそうな表情がとても印象的でした。

2. やすらぎサロンつわ

「土浦市生きがい対応型デイサービス」として、土浦市並木の空き店舗を利用し、NPOにより、2005年からスタートしました。

毎日9時～午後5時まで開館しています。利用料は1日100円。毎月予定表が発行され、興味のある講座に参加できます。

有償スタッフは男性2人、女性5人。掃除や受付が主な仕事。2名常駐。ボランティア多数で運営しています。

一方、利用登録者は1300人。1日平均30名程度が参加しているそうです。利用者の平均年齢は74歳。男性3割、女性7割。

介護保険会計からの補助は毎年600万から700万円。主に家賃、光熱費、人件費として使われます。

運営委員は10名くらい。利用者半分、地域の有力者半分というバランス。

私たちが訪れた日はちょうど健康マージャンの日ということで、20人近い人がマージャンを楽しんでいました。もう一部屋の方ではカラオケを楽しむ人たちが賑わっていました。補助されたお金はカラオケ設備には使えないということで、利用料を貯めて中古品を設置したそうです。カラオケはとても人気があるようです。

つくば市でも「ふれあいサロン」が有志の方により地域で開かれています。補助はわずかで、ボランティアに頼る状況です。毎日サロンが開かれるという状況は今のままでは不可能です。

土浦市の例を丸々つくば市に…というわけにはいきませんが、参考にしたい部分は多々あります。

今回の見学を参考に、つくば市でできたらいいね を話し合っていきたいです。